

担い手の経営のライフステージに応じた支援

 (2) 葛尾村における“7年半ぶりの酪農経営の再開”を支援
農林中央金庫 福島支店（福島県）

新規	継続
○	(年 月)

1 動機(経緯)	福島県双葉郡葛尾村は、2011年3月11日に発生した福島第一原子力発電所事故の影響により村内全域が警戒区域または計画的避難区域に指定され、全村民が避難を余儀なくされてきました。 葛尾村では2016年6月12日に一部地域を除き避難指示が解除され、村民の帰村および産業の再開に村を挙げて取り組んでいるところです。
2 概要	A農業法人の代表取締役であるBさんと息子で取締役のCさんは、震災前は個人農家として搾乳牛80頭を飼養し酪農業を営んでいましたが、震災に伴い休業を強いられていました。 当社では避難指示解除後の営農再開に向けて2012年に法人化し、2016年に一部避難指示解除になったことでいち早く帰村して営農再開に向けて準備してきました。 2018年9月13日に震災から7年半ぶりにセリに参加し、初妊牛8頭数を導入しました
3 成果(効果)	農林中央金庫 福島支店は、事業構想段階から当社と二人三脚で、営農再開計画の策定や行政機関との調整等をサポートを行い、日本政策金融公庫と連携し、当社の震災前の経営内容や、本計画の事業性・妥当性、本案件が葛尾村の復興に果たす役割を評価し、乳牛導入資金等として融資を2018年9月28日に実行しました。
4 今後の予定	当社の酪農経営の再開は、葛尾村復興の確かな一歩を示す大きな意義を持つものです。当社は、5年後に搾乳頭数300頭規模まで事業拡大することを目指しており、地域産業の活性化、避難者の帰村や雇用の創出に繋がると考えています。

【牛舎の様子】

